明治三十二年一月十八日印刷
明治三十二年一月廿七日發行

婦人衛生雜誌

第百十號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第百十號
目次

講演

●獨乙婦人の話　陸軍軍醫醫學博士　芳賀榮次郎君

衛生叢談

●芳賀軍醫正の西比利亞遠征談

●撿溫法

●脉搏

●大日本婦人衛生會記事

●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第百九號
目次

講演

●庖厨器具の衛生上利害　理學博士　長井長義君

●妊婦の養生　Dr. I. S.

●産婦と蓐婦の養生

衛生叢談

●芳賀軍醫正の西比利亞遠征談

●學校衛生上に及ぼす害

●肺を強壯にする法

●鯉魚の結核病

●各國人の平均壽命

●痲疹

●齒痛

●氣候と病との關係

●大日本婦人衛生會記事

●廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衞生雜誌第百十號
（明治三十二年一月二十日發行）

講演

◎獨乙婦人の話（十二月例會に於て）

陸軍軍醫學博士　芳賀榮次郎君演說

私の演題は「獨乙婦人の話」と云ふので御座います、實は御婦人方に西洋婦人の話をするのは幾分か面白からうかと存して演題と致しましたが、さりとて私が今日御話することが、悉く善き事で有る、皆樣の龜鑑になることてあると云ふ斷言をすることは出來ないので、つまり獨逸其他の國々で見て來た事を御話する……所謂一口話に止まつて、必すしも「私の言ふ所を手本とせられよ」と云ふのではない、西洋婦人の行爲か果して標準となるか否かと云ふことの、其取捨に就ては、尙は充分の研究を要することで御座いますから其御意で御聽きを願ひたい。サテ日本から始めて歐洲に參ると、風俗人情が變つて居つて、私等には事々物々悉く目新らしく感せらるゝので御座います。就中婦人の狀態は、一層目新らしく思はれます。やはり歐羅巴人が日本に參ると、頻りに日本婦人の有樣が目に觸れるさうで有るが、ソレと同じに本邦人が歐洲に參ると婦人の有樣が頗る目に附きます。斯く申しましたとて、私は獨乙婦人其他各國婦人の教育の程度知識の發達を明細に調べたと云ふのではない、他に自分の本務を帶びて往つて居りました間、居常自分の目に觸れ、心に感じた事を御話すると云ふだけのことで御座いま

す。

さて何から御話をはじめて宜いか……………申上げたい事は澤山有りますが、先づ今日の集會は婦人衛生會の事故、第一に衛生に關したることを御話すれば、彼我婦人の一見して異るは其體格で御座います。歐羅巴人の體格は皆樣も御承知の通り、婦人でもなか〳〵大きいで有ります。是れは何う云ふ譯か、一躰の人種が異うからで有らうか、或は風土の差う故で有らうか………勿論女のみが殊更に大きいのではない、男子も大きいから從つて女子も大きいので有りませう、尤北方の人種は一体にからだが大きく、南方の人は小さい、ソレ故に歐羅巴の中でも伊太利佛蘭西などの人は小さいので、獨逸露西亞などの北方の人は大きい。獨乙婦人などはなか〳〵体格が大きいので、我々は婦人の前に出ても小さくて恥かしくて堪らない。尤日本の婦人の躰質はどの位ゐであるか調べたことはないが、男子は丁年に達しますと、徵兵の義務でからだを撿査しまするから解つて居るが、先づ日本の兵は歩兵の身長が五尺二寸以上、併ながら近年は所謂軍備擴張の結果、全國の師團が殖えましたので、兵を取る數が增し、五尺二寸以上の者を取ると云ふは甚だ困難である、完全無缺なる合格者は容易に得難いので、五尺二寸以下の者も取らなければならむことになつた、で今の女子の體格に就て撿査をしたら如何の寸法が出て來るか、能く承知して居らない、併ながら一般に日本人は男女共に近年小さくなつたと云ふ事は衆くの人の認むる所であるが、是れは信に事實の樣である、西洋の文明の入り來りたる爲めに人間が腦漿を餘計

遣うので躰格が小さくなつたので有らうか、其論は姑く措きまして、何せよ日本人は歐羅巴人より一躰に小さい、所で獨乙の婦人は平均男に比すれば小さいが、併し平均日本の男子と匹敵する程の身長が有る。從ツて智識も有り、働くことも餘計出來る、是れは則ち體格の如何に基くので、歐洲で能く言ふ通り健康なる身躰には健康の精神が宿ると云ふ原則に基いて、自然知識も勝れて居り、從ツて充分に働いて自個の本分を完了することも出來る。デ一般の婦人社會を觀ますると、獨乙などでも隨分婦人が能く働いて居ります、けれども固より男子の働くのと、女子の働くのとには自ら區畫が有りまして、勞働の事業には主として男子が從事し、腦を遣うことには女が餘計從事して居る、或は多くの手仕事は專ら婦人の仕事としてある。例之ば車を挽き、馬を御するは男の仕事で、決して女に屬することではない（勿論日本でも手仕事は主に女の業になつて居る）或は郵便切手を賣るとか、停車塲で切符を賣るとかである、又電信電話の事に女子の適當して居ることは、特に日本でも承知して居ることで有ります。デ一般に申すと彼地は生存競爭が激しく、今日世上に生活して往くには、何うしても我一身を養つて往かなければならむと云ふことが目前に迫つて居る爲めに、何うしても働かなければならない。又からだが弱ければ無論働くことが出來ないから、貧乏になるとか、死んで了うとか云ふ樣になる、ソレ故にからだの弱いもの程世に不幸なることはない、其生存競爭は男女共互に爲して居る。男が勉强を致し學問を修めて善き人に爲らう財を蓄め樣と云

ふのは、畢竟我一身を好き地位に置き、子々孫々迄榮えたいと望むためで有る、婦人も亦其通りで、殊に又歐羅巴婦人は、自分で働いて食はなければならないと云ふのが一般の風である、日本では婦人は男子に賴つて往くと云ふ傾きが有る。則ち人に嫁すれば、一家の生計は總て男が働くので、婦人は只家政に從事して、子女の敎育を主ると、所謂分業的になつて居るが、何分獨逸などに在つては世が澆季になつたと云ふのであるが、生存競爭か強くなつて自ら女が男に賴ると云ふことは少なくなつて女も、自立の道を計らなければ一身を送ることが出來ないやうになつた。何故と云ふに、男子の方も生存競爭――我口を糊する爲めに、莫大の仕事を有するので、婦人を娶るのは先づ容易な事ではないのである、ソレ故に女子も男子が娶つて吳れない以上は、自分で働いて、糊口の途を求むると云ふのは自然の勢で有ります、爾う云ふ國の有樣故彼地の婦人は子を敎育するには、男女に拘らず其子が獨で糊口の道を立て得るやうになれと云ふのが主眼で有る。先づ日本では、女子なれば嫁して人の妻となつては如何、母となつて兒女を敎育するは如何と云ふことを訓へ、又裁縫其他禮式等を敎へるので、大概妙齡に達すれば、夫に嫁し一家を理めることが出來るのであるが、獨乙では普通一般の婦人は、嫁に往くと云ふことは第二の問題で、自個の口を糊すると云ふのが第一の肝要になつて居る、で幸に良人を得れば、其人の幸福と云ふ樣になつて居る、………が先づ〳〵我口を糊することに汲々として居るものゝ方が多い、誠に其點は日本の女子などに

比べて見れば、獨乙の婦人は餘程不幸なので有ります。婦人が斯樣に働かねばならぬことを決して幸と私は思はない、彼地の婦人に問ふて見ても、決して之を幸と思ッて居らない、ソレのみならず日本の婦人の話をすると、實に僥倖であるといッて、日本に往きたいと云ふやうなものが多くある。であるから彼地では普通の學問の外に、何か一ッの手仕事を親が娘に敎へるのが一ッの必要になッて居る、小學校中學校を卒業させるだけの義務は勿論であるか、ソレだけでは食へませぬから其他に何なりと敎へて、ソレを以て獨立が出得來るやうになして居る。斯樣に女が獨で食はうと云ふやうになッて居るので、從ッて世の中に男女の生存競爭がなか〳〵烈しくなッて居ります。で是れは先づ中等以下の一般の風を御話したので、西洋でも良き人は嫁にも往けやうし、又嫁に往かぬもの丶中にも良き人は澤山にあるので、決して上下通じて婦人の有樣は斯やうであると云ふのではない。で婦人はどうしても男子に比して性質が隱和で、又勉强心に富んで居り、事を執ッて緻密で有ります。ソレ故同じ仕事をさせるなら、どうしても婦人に賴む方が宜い、又婦人は男子に比して自ら節すると云ふことが多い、自分の身を節する、則ち男子に在つては酒を飮み煙草を吹ふ等のいろ〳〵の癖が有るが、婦人は一体に爾う云ふことが少ないから、今日の生活の度合も男子に比して女子の方が安く揚かる、例之ば男は平均二圓で揚れば女は一圓で揚がると云ふやうな有樣がある、其外男は酒を飮み、茶を喫し、煙草を吸ふことなども多く、從つて雜費が餘計懸る、デ

あるから、何業に關はらず女の方が仕事が廉い、而して前にも申す通り、事が丁寧緻密で有るから依賴者が大層多いので、近來は爲めに男子の仕事が漸々減じて來る有樣で有ります。例之ば今千人の職工を要する塲合に、女は一人前一圓であるが、男は二圓であると云ふやうな所から、或種類の職工塲では女子のみを遣つて居る、ソレ故に生糸事業等は悉く女の手に落ちて女の方が需要が多いと云ふ譯で有ります、つまり男と女が競爭をして、男が存外自分の職業を取られて了ッて窮ッて居ると云ふやうなことが往々有ります。斯樣な事は妙なことで皆樣に御話する必要はないかも知れない、皆樣は自から働いて暮すと云ふ方では無いで有らうが、御話をして見れば其通りである。今日は各國共に工業が熾で、獨乙佛蘭西英吉利共に工業が盛大に趣きます。昔は農業が盛に行はれて孰れの國でも畑に種子を蒔いて耕作して居ッたものが、今はソレでは食へなくなッて、ソレよりは利益の多い工業が漸く盛になッて來た、機械を運轉し紡紗陶器を製して賣る方が利が多いと云ふので、日本も今や工業國に向ひ宛るので有ります。斯くの如く歐羅巴に於きましては、女子の働く塲所が多くなッて、近頃は鐵砲を製造する工場にまて、婦人が働きつゝある。ソレは何う云ふ事をするのであるかと云ふに、火藥を包むとか云ふ樣な婦人に出來さうな仕事は、悉く婦人が遣ッて居る、なぜソンな事を婦人が爲るかと云ふに、今も申す通り婦人も自立して生活の道を立てやうとするからである、男に縋ッて食ふと云ふことは的にならない、婦人も最早賴う云ふ事は斷念して居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るといつて宜い。ソレでするから到る處に於て婦人が働いて居るのを見ます、各商店などの賣子は、日本では多く男が賣つて居るが、彼地では女の賣子が出て居る、客が參ると品物を出すとか、何はいくらであるとか、又は勘定をすると云ふやうな事は皆雇女が取扱つて居ります。爾う云ふ風であるから、矢張り伯林のやうな都會では下婢などには却つて払底を來して窮つて居る、斯樣に隨分女の需要が多いと云ふべきで有ります。ソレで爾うなつて來ますると、亞米利加とか英吉利とかになると、男女同權といつて、何方も負けず劣らずに爭ふと云ふことであるが、獨逸邊は未だ文明の度が英吉利や亞米利加ほどに達せざるために有るか、男女同權の說などは起つて居らない。で固日本人も、獨乙の婦人は日本の婦人に似て居ると云つて居たが、私も或は然らむと思ひました、獨逸に於ては男女同權論など丶云ふ事は非常に忌む、故に時として一二の婦人がソンな論を持ち出しても賛成を得ることの出來ない所か、到底世間から善くは言はれない、ソコが餘程亞米利加英吉利と風の違う所である、勿論私は亞米利加には往きません、英吉利に鳥渡往つたばかり故能くは知りませぬが、世界中で亞米利加英吉利が一番女權の張ッて居る邦で有る、獨乙などは未だ女權が張ッて居ると云ふやうな譯には往かない、で現今は色々の事を婦人が企て丶、獨乙の婦人は權利が低い、男子に比して劣等に位して居るから、之を恢復しなければならむと云ッて居るが、先づ〳〵さう云ふ風な婦人は、一般社會からはあまり歡迎されて居らない、從ッて獨乙婦人は先づ柔和を主と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して、又其爲すべき業は、家政を執ると云ふ様な事が主である。男女の間は先づ夫婦などにありますると、何うしても良人を立てると云ふやふな處が有ります、先づ歐羅巴では外形上では、餘程女が尊くなッて居る、獨乙なぞでも權利は男女同權と云ふことはないけれども、外形上に於て男が女に對するの尊敬は餘程重じて居る……此事に就ては御婦人方に申すよりは我々男子に說法しなければならないので有る、歐羅巴の男子の婦人に對して言語擧動を頗る注意して居る。日本は全くソレに反對で、古來より日本男子が婦人に對しては實に無作法極まるので、ソレにも拘らず婦人が男子に對しので擧動言語應接は、極めて叮重で、我々は其點に就ては日本婦人に此上望む所はない、過分である、寧ろ男子が婦人に對する心得が普く届いて居らないを嘆じます、歐羅巴では男子が婦人に對して交際上應接上女子を厚く禮遇する習慣が有る、故に能く噺しにもある通り鐵道馬車に乘り合つて空席の無いときは、男子は立つて婦人に席を讓る、又席の餘るときには女を右の方の上席に置く、又婦人などが馬車を下りるときには、男子が婦人の手を携へて遣ると云ふやうに非常に女に對するには注意をして居る、其風俗が丁度日本とは反對して居る、日本では女が男に對して非常に叮嚀にして、女即ち少し劣いものゝ様になつて居つて、殊に封建時代の遺風として女子と云ふものを非常に賤しめる風が有ります。ソレが西洋では全く反對であるが、併し是れは禮節で、禮節と權利とは自ら違うので有ります。ソレ故に獨乙邊でも斯様に女を好遇するにも拘らず、前申す通り

女權擴張の聲なぞは絶えて聽きませぬ、又男子も左樣な話は鼻をつまんで厭がる、併ながら女に厚いことは他文明國と同じで、婦人が來れば席を讓り、言語擧動を愼むは普通當前のことになッて居る。だから鳥渡賭ると、女尊男卑のやうにも見ゆるが、獨乙の風は決して爾うでない、固より男尊女卑と云ふ程にことゝしく天理に立ち入ッて、女を卑めると云ふのではないが、亞米利加や英吉利に於ける程に女を尊んで立てると云ふことはない。夫婦間なぞも外に出でゝは、男子が婦人を厚遇するが、家庭内に於ては、やはり男が立てゝある。又世の中を組織するにも、先づ男子の世の中といッて宜い則ち執政者海陸軍等皆男子の手に成立ッて居る、則ち男子が主で、女子が客である。是れは縱ひ亞米利加でも、英吉利でも皆爾うである、全体に今の世の中は男が主で女が客である、此世の中は男女相並んで治めるものであることは勿論ながら、其仕事には自ら差が有る、則ち主客の別が有る、政治家、國會議員、軍人等總て男子の任で有る、デ男を御主人と見、女を御客樣として見れば、今日互の交際上にも、何處までも御客樣たる女子を尊ぶのは當前の事で、今、日本の風俗から謂ひましても、御客樣と家内の者とあれば客を先にし、家の者を後にするは禮義の通法で有る、男子は主人公で有るからどこまでも客たる婦人に禮儀を厚うするのは當前である、併しどこまでも男子は主人故權利と云ふものは男に在ると云つて宜い、則ち上は天子の上事に御話をすれば、天子が位に即き天皇陛下として御立ちになつて玉座に在す時は、右の方（右を尊しとしてある）に

まします、又幸行が有ッて兩陛下が御車に召さるゝ時には、どこまでも天子は天子、一天万乘の君故右の尊き方の位地を占めて居らるゝ、併ながら斯う云ふ公の事でなく、天皇陛下の一家内の事になると、其夫たる天子は皇后陛下たる我夫人に重きを置いて席を讓り右にするると云ふ習慣で有る例之ば獨乙などで市街を散歩せらるゝのを見ると、此時は一個の資格であらせられますから皇后陛下が右で、天皇陛下は左の方に歩ませられます。或は御馬車なれば、天子が鞭を取り、皇后が坐つて居らるゝと云ふ風が有るが、是れは只二人の間柄だけのことで、やはり男子が婦人に讓る習慣から來たもので有りませう。彼地の風を視るにも能くソコを注意して見ないと間違う、一概に彼地では男子が女子に禮節を盡すから、婦人の權利も從つて高いので有らうと思ふと間違う、獨乙あたりでは況して爾う云ふことはない、表面上男子は能く女子を敬うけれども、翻つて家庭の内に這入つて見ると、夫婦間などでは、實に妻が良人によく盡して居ります、誠に交際のやかましい國故、外に出ては夫が妻に外套を着せ、靴を脫がせて遣る場合はあるが、家内に入つては婦人が能く妻たるの義務を盡して、脫ぎたる衣服を仕舞うとか云ふ樣な良人の衣食住に就ては充分其本分を盡して居るので有ります。又兒女の教育、家政を守る等のことは、一に婦人の任故、やはり彼地の婦人でも、之を務めて居るので有ります。どうも只習慣上、男女共に外に出でゝ、男子が空手で步行いて、妻君に重荷を脊負せたり、小兒を抱かせたりすることは何うしても出來ないので。ソレなら

ば婦人が非常に高慢で良人を尻の下へ布いて居るやうな風かと思つて見れば、決してそうでない婦人にはソレだけの教育が有りますから、どこまでも自分の盡すべき事は盡して居ります。世の中の交際上、習慣上外に出づれば、車の見附からぬ時には、男が歩行いて女が乘つて往くと云ふのは日本などでは惡るくをかしく言ふが、どうも婦人は天性虛弱にして男は強壯故、強い者は弱いものを扶けると云ふ意味から云ふと勢ひ、強き男は弱き女を保護して遣らなければならぬ傾きである、彼地の男子は一般にこう云ふ教育を受けて居る、日本では女に對する男子の教育が無い、女子は充分に家庭教育で仕込まれてゐるが、男子に少しも其心得が無い、から世の中の交際が工合能く往かぬことが有ります。日本にて西洋流の立食の饗應が有つて、男子が令孃夫人を伴つて來て居りましても、婦人の方にまで手の廻はらないことが幾らも有る、そう云ふ場合に男子ならば平氣であるが、婦人と云ふものは心にいくらか飾のあるもの、又外形上禮儀とか樣子とかを飾ぶのが女の常故、幾ら美味佳肴が並んであつても遠慮會釋なくつかみ取ることは出來ない、かゝる場合には西洋では男子が取つてどうぞ之を御食りなさいといつて先づ婦人に進めて然る後自分が食ふと云ふやうになつて居るから、大勢の男女が集會しても誠に面白く融和することが出來る。女は御客樣故男が茶を取り、食物を進めますから婦人も滿足致し、男子もその本分を盡すといつて世に恥ぢない。彼地ではソレ等の心得の無き人は、極く〳〵山出しのシベリヤからでも連れて來た男で有らうといつ

て人に相手にされないので有ります。先づ爾う云ふ樣な譯で有りまするから、交際塲裡に在つても、男女都合好く折り合つて往くので有ります。又女が男子から厚遇されるからといつて傲慢つて男子を輕蔑にするかと云ふに、ソンなことは決してない、ソレ等の事は教育ある婦人の最も愼む所で、只その厚意を謝するのみである、又婦人の方にも男子に對する心得は充分に敎へて有ります。で又男女の交際などゝ云ふことに就ては、良き點ばかりを我々は見て來るので、惡るい點は彼地の人も、外國人などには成るへく匿すで有りませうから、其中には惡るい事も幾らもあつて、我々は善き點ばかりを見て來たのであるかも知れないが、まづ我々が表面より視た所では、あちらの習慣は何分にも好く出來て居ると思ひます。能く西洋の交際塲裡で遣ることは舞蹈です、舞蹈は運動の一つ禮節の一つで、往つて見て實は我々も始めて知つたのであるが、これは恰も日本の婦人が女禮を稽古するごとく、舞蹈の際に禮式を敎へられる、ソレ故に男子が小學中學を卒業すると別に時間を取つて舞蹈を習ひます。ソレは舞蹈の時間といつて、日に二時間位一週に三回位ゐ夜間稽古に往きます。只舞蹈を習うと云ふと、日本人より見ればをかしいが、能く聽くと決して笑うことは出來ない。矢張り日本人が茶の湯の稽古をするに、茶碗の持ち方は何うだとか、飲み方はどうだとか、どの位ゐ隔つて立つとか、禮をするとか云ふやうな禮儀作法を敎ゆると均しく。彼地では舞蹈の稽古をする際に男女共禮式を覺へるので有ります。我國の男子などはそも〳〵禮儀と云ふもの

は、何處で覺へるので有らうか、先づ男子にて殆ど禮儀と云ふものは敎へないといつて宜い、男子の禮儀が一般に亂れて居りますから御辭儀をする時には、頭ばかり下げて腰が上がつて居ると云ふ樣な醜き体裁を爲すものも珍らしくない。彼方では男女共漸く社會の交際場裡に立たむとするに先つて、悉く禮儀を敎へるので、或は日本では女は内股であるけと敎へれば彼地では外股に、体は眞直に對ふを見て歩行けと云ふやうなことまで敎へる、体操で一通りからだの動作が定つた處に、社會に出て恥をかゝぬやうにと其上の行儀作法を敎へる、是等の事は學校では敎へませぬ、別に舞蹈の學校………があツて、一週に一二回夜間二時間位ゐ稽古をして一冬季で卒業をすることになツて居る、さうなると今度は實際に舞蹈の會に招かれて、其巧拙はその人の稽古次第で有ります、デ手を握り、或は手を吸ふ、腰を屈めると云ふやうな事、或は高貴の人に對する禮、初對面の人に對する禮、懇意の人に對する禮、或は宮中に召され天皇陛下の御催しになる舞蹈會に於ての行儀作法等は皆舞蹈を習うときに覺へて了ひます。是れは御承知の通り若き男女が打交ッて踊るので、一方から考ふれば惡しきことを覺ゆる媒介のやうであるかも知れないが、併しソレ等の事を習うのは丁度十四五歳の年輩でまだ惡しきことを覺へると云ふ年頭ではない、子供心の失せぬ位ゐの年故まだ〱度胸も狹く世の中に出たこともない位ゐのものであるから存外爾う云ふ方の心配はない。デ彼地では兒女が一定の年齡に達する迄は、交際場裡には決して出さないことになッて居る則ちソレには元

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

服と云ふことが有ッて、男女共に元服をすれば人の前に出て客と應待をし、交際場裡に出ることが出來る。以前は日本にも其定めが有ッたが、今はソレ等の事も誠に亂れて居る、昔の制度は日本も西洋もあまり違はない、例之ば西洋でも小兒が生まるれば、寺院に連れて往ッて命名して貰う、日本でも先づ宮に詣でゝ名を附けて貰う、縱ひ名は家で附けても儀式的には神官に御札を貰ッて來る。ソレから第二に御寺院に往くのは元服の時、ソレは一定の年齡と云ふはない、早きは十四才、遲きは十六才位ゐで、其時は御寺に往ッて僧侶に賴んで、將來の幸福を神に禱ッて貰う、ソレより始めて人の前に出て同等の交際が出來る、ソレ迄は御承知の通り短き衣服を着て、脚は靴下の儘現はして居る、ソレが日本の肩上、腰上と同じで、元服をすれば裾の長き衣服と改める、日本でも大人になると肩上腰上を除ッて了う、髮なども小兒の中は長く下げて居る者が隨分有が、元服すると同時に其風を改て、髷を結ひ、帽子を被ぶる、既に元服をしますると身體衣服の裝飾が悉皆變つて了う、日本に於ても先づ同樣で有ります。で高貴の人になりますると元服祝をして、知人を招き、其子の親は「私の娘も此度元服を致しましたから宜しく御交際を下さいませ」といつて紹介をする、ソレで世間の人も始めて知つて、今度の夜會には誰某さんも呼ばうと云ふ樣に、諸所の夜會に招かれて衆くの知人も出來、始めて世の中に出るのです、其前といふものは男でも女でも人の前には出られない、ソレのみならず家庭に在つても兒女は更に權利が無いので、召使ふ所の下婢下男な

ども、日本の如く坊樣嬢樣と云ふ尊稱は用ひない、いくら良き人でも、兒女は實に權利が無いので梅ならば、梅と云ふ名を呼棄て丶下婢下男が遠慮なく叱つて居る、決して「何も宜し彼も宜し嬢樣々々」と云ふ樣な風には育てない、是れに就ては孰れが利益あるか、日本のやうに尊んで育てつ方が利益が有るか、若くは西洋のやうに呼び捨てにして粗末なる待遇をするのが宜いか、是れは皆樣の御考へもので私も亦考へ中で、果してソレが宜いと云ふ譯にも往かない、併ながら彼地の風は先づ規律が宜いと謂ッてよろしい、家庭敎育上、幼きときは毫しも權利を與へないで、元服をすると其時から御嬢樣と云ッて尊稱の語を用ひ始めて一個人としての權利を得たと云ふものであるから何處にでも出て舞踏もし、食卓にも就く、漸々さう云ふ風に一人前の人間になると、先づ女子なれば良人を探すと云ふやうな事になッて來る。御承知の通り西洋では良人は自分で探すので、媒介人と云ふものはない、あれは何うも國の習慣であッて往古今より千五六百年前或は紀元前には希臘羅馬では媒介人が有ッて結婚をしたさうであるが何か弊害が有ッて互に探すと云ふやうになッた今でも猶太人は(小亞細亞から出た人種)宗敎の異なる如く習慣も別で、媒介人を以て結婚をするのが有る、寧ろ其方が多いと云ふ話であるけれども媒介人を用ひると、猶太人が金などを餘計に取ッて後は何うなッても搆はないと云ふやうな薄情な人間の有る爲めに、大へんに惡弊が出て來ました。デ先づ希臘敎を信じて居るものは媒介は頼まないけれども性質を窺ふ、友達を以て聽き合はせる

とか、兩親の手を經て聽き合はせると云ふ様な事は矢張遣ッて居る。先づ第一に少し日本と違うのは間なく交際して居ッて表からも裏からも其人の素性を見抜いて後に結婚をするのが通常の様である、若き男女は諸所の會に招かるゝから男女互に密接なる交際が出來る、ソコで互に知り合う機會が有る、日本では自由結婚といッた所で、今の日本の狀況では出來ない媒介人を頼まなければ互に知ることが出來ない、あの男は末頼もしいか、學問が有るかを知ることが出來ない偶々逢ッた人が良かッたとか、惡るかッたとか云うやうな事では撰擇を過まる。彼地では十二、一、二の三日間を以て交際社會の交際時季として互に往來をする、彼地では冬になると戸外に出て遊ぶことは出來ないなぜなれば冬になると今日の様な雨天が多くて外に出ても濕ッて居る日が多い、ソレ故皆家に集ッて宴會を開く、位地の上中下に因ッて多少の差はあるが、中以上は冬になると非常に交際が頻繁である、其中でも交際の廣き人になると、毎晩々々一月の間休む暇なく諸所の會に招かれて、隨分苦むさうです、何處でも人情は同じことで……まだ慣れない中は多勢の前で落度なく、人に惡るく言はれない様にしやうと思ふので、若き人々は初めの一年位ゐは非常に苦いけれども折角招かれた會へ出なければ人々の感情を惡るくするから務めても往くと云ふやうな風で、中流以上の令孃などになると毎晩忙しい、併し爾う云ふ人は普通の教育は終ッた人で、前に申した舞踏女禮をも卒業し、外國語學の一ッや二ッは出來て居るから教育を妨げると云ふやうなことはない、却ッて世の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中の事情に通じ、男女の情況に明るくなるので有ます爾う云ふ風にして漸々に馴るからで有ませうか、御承知の通り西洋婦人は人の前に出ても臆せず話も遣まして、男と少も違ッたとはない、先づソレも比較して見たら日本の男子位に遣る、私等彼地に往と殆ど處女の如しで、始終小さくなつて居ッたが、彼方の婦人は元服するや否や交際場裡に立ますから誠に交際が上手で、私等が往と婦人の方から機嫌を取ッて遊ばせて呉れる、殊に我々外國人は馴れぬ中は、彼地の人情風俗が異ッて居ッて、何事も不案内で有るから、思はぬ失敗をしてはならぬ、無禮をしては惡るいと思ッて何事も扣へ目に謙遜をするから從ッて穏しくなるので有ります、併し漸々馴れて二度目の冬からは遠慮もなく成り略樣子も解ッて來ます、初めの冬は男と女とあると、何れに先に挨拶をして好いかも解らないで、度々まごつきますが、ソンな事も一冬經れば大抵解り、舞蹈なども面白くなッて隨分愉快に遊べます。又何事も半分は樂みて、夜會などで、男女共に相談じて腹藏なく饒舌るのは面白いことに違ひない、其間に心を觀合ッて、許すべきものならば良人に定め妻に娶る………併し是れも男の方から申すとなか〱妻を娶らぬさうです、どうも今申す通り生活に困難故男子が二十五歳や三十歳になッても、妻子を養うと云ふことは實際出來ない、已を得ず獨身で暮して居る、歐羅巴人とても皆金滿家と云ふ譯には往かぬから、矢張り奉職をするとか、軍人になるとか、ソレ々々專門の學科を修めて、大學を卒業するとか致しますが、なか〱大學を卒業したとて翌日から百圓取

ると云ふ譯には往かない。先づ醫學法學を修めても、五年は只奉公と思はなければならぬ、實に世の中が進歩して居りますから……我々日本人は大學を卒業すれば、まづ生涯安心であるが、彼地は學士博士は林の如く塵の如くあッて、電氣燈の如く頭を照して居るものが澤山で、若い者が、大學を卒業したからして直樣裕かに生活すると云ふことはむづかしい。醫學を修めても卒業をしてから姑く病院に無報酬で奉職しソレから看板を掲けても二年は誰れも頼者がない。ソレ故に資産の有る者でなければ大學へは入學が出來ない、卒業をしても五年間位ゐは父母の脛を嚙ッて居なければならむと云ふやうな有様故迚も女房など丶云ふものは容易に持ッことは出來ない。ソレ故婦人の賣口が少なく、又世の中の風俗仕組が容易くない。

日本の夫婦の様なれば妻を娶ッてもソレ程困ることはない、小さな家を借りて世の中に出さないやうにして活きて居れば女房も娶れるので有りませう、併し西洋では爾う云ふ事は許さない社會故少しく身分ある者が家内を持て、一家を理める以上は世の中の交際に這入らなければならむ、ソレだから苦い、食うだけならば何うか斯うか往くが、交際が張ッて居るから、婦人の衣服車代又人に招かるれば其挨拶に人をも招待しなければならない。ソレには莫大の金が懸る日本でも中等以上の社會になると、なか〳〵交際が頻繁であるから弘く交際をした日には迚も交際に追はれて一家が成立ッて往かない、未だ日本では交際をしないでも濟むから宜いが、彼地では前申す通りソレを遣らなければ男子の辱又女子がどの位ゐ不愉快である

か知れない、故に已むを得ず獨身者が多い、だから資産ある妻なれば結構であるから忽ちに縁談も整ふのである、斯う云ふ社會の狀態であるから僅かの資産を有する者は、初めから人に嫁すると云ふやうなことは思はない、資産あるものは自分の愛孃の爲めに、其中を割ッて持たせて遣ります。從ッて男子の方も、資産ある妻君を娶ッて其金の一部分で交際を助けやうと云ふ望みを出すものが多く有る、加ふるに獨乙邊りは漸々女子の數が殖ゐる。日本は先づ男子の數と女子の數とでは男子の方が少し多い、處が日本でも近年は生糸の盛なる所は女が餘計這入り込んで居るから人口が女の方が殖えて居るが、其外は東京大坂京都でも男の方が多し、然るに歐羅巴ではどこに往ッて見ても女の方が多い、是れは何故であるかと云ふに、獨乙の如きは男子は他國に出稼をする、先づ獨乙人の亞米利加に往ッて居るものが何の位ゐであるか解らない、其他露西亞にも亞米利加にも多勢往ッて居る、近來は日本にも澤山來て居る、又男子は商業上から別天地に往ッて一旗揚げやうと思ッて、世界万國に飛んで步行くから年々男子の數が、減じて來る、生れる數は同じ位ゐで有らうが、成年に達してから少なくなります。ソコに至るといくら西洋の婦人でも遠く世界にとび出すと云ふやうなことは少ない、日本でも天草邊の女子は隨分外國までも飛び出します、西洋の女子も飛び出さないではないが、どうしても男子の方が多く出でゝ女子の方が殘るといふ譯となりますから丁度一人の男子に女子一人半位の割合であれば從ッて男子の方が威張ッて來て、資産でも餘計有るものを

貰ふと云ふ社會の有様になッて來ますそして男子は裸躰でも學問があれば宜い、女子は一定の教育があれば後は金となッて居る、故に男子は學問さへあれば何うにも立つ、婦人は教育一通では往けない、即ち非常に澤山の財産でも親が遺して往ッたものは良き夫に嫁くことが出來るが、爾うでないものは一生獨身で送るのが比々是れなり、デ爾うあるから女子は又男子を得んとする競爭が烈しく男子は又女子を撰擇することを務める………ソコに往くと西洋の女子は誠に氣の毒で、男子は幸福で有るかも知れない、ソレ等の事が實際の情況かも知れない、でモウ高等官の妻君にでもならうと云ふのは非常な困難で、………特別の資産でも持つて居らないときは到底むつかしいので有ります。彼地では容貌などは第二で、人が重きを置かない、實際ソンな事は言つて居られない、一通の教育の有るものなればあとは資産、則ち持參金とか、支度金とか云ふものは、中以上の結婚には最必要、殊に歐羅巴人は妙な習慣で、外國人と結婚するのを少しも厭はない、宗教の異なるのは少し厭ふ傾きが有る、ソレ故に佛蘭西人と英吉利人と結婚し、獨乙人と露西亞人と結婚し、獨乙人と亞米利加人と結婚し、佛蘭西人と露西亞人と結婚すると云ふのは敢て珍らしいことではない。ソレ故に外國の資産家の娘が夫探がしに獨乙に來て、竟に結婚をするので、土地の婦人は益々困る、殊に又軍人とて皆々金持ちばかりでなく……………其癖華美な生活をしなければならないので、獨乙の様な軍人國で男子は軍人でなければならないと云ふやうな國柄は別して華美にして居りますから從ッ

て費用も多く資産ある妻君でも持たなければ到底續かないのである、ソレであるから外國の婦人等が、父母の儲けた金を持ッて獨逸に來て軍人などヽ結婚をする、故に冬になッて交際が盛な時分になると、外國人等が娘を連れて來て伯林邊の下宿屋に泊り込んで同宿の男子と懇意にさせ、又世間に知己でもあれば其縁に縋ッて交際場裡に出して適當なる男子を探がすと云ふ形況になッて居るので、誠に女子を持ッた親は割が惡るい、彼地では民間の下級に在るものでも嫁に往くには一通の衣類は持ッて往かなければならむと云ふ習慣である、下士官の如き私等の知ッて居ッた者でも爾う言ッイ居ッたが、下士官の如き身分のものに嫁に往くとなれば、一切合切皆婦人が持ッて往く、日本でいふと男子が家を借り、世帶道具を揃へて妻を迎へるのが普通だが、彼地は爾うでない、男子は無一物で、婦人が何も彼も持ッて來るさすれば、男女同權どころではない女には酷い處だと思ッて來たので御座います。御承知の通り西洋の家には種々の装飾品が要るが、ソレ等の飾道具、椅子、卓、寢臺、食器、ピアノと云ふ樣なものは婦人に附物、其他鏡臺針箱鏡と云ふやうな道具一切、ソレから夫の寢衣とか云ふものは一切合切妻君が持ッて往く習慣である故に容易に結婚は出來ない、だから婦人は自分で金を貯へて夫を探がし、又親の身にすればソレだけの事をしなければ世間體が惡るくッて嫁にも遣れないから、此娘は一生獨身で暮すより外御座いませぬなどヽいッて話をするものが有ります。ソレ故何う考へても日本の婦人は幸福で有る、デ私は今日御在席の若き

方々には餘り必要でない夫婦喇しばかり餘計致した樣でありますが、先づ獨乙などでは大畧こう云ふ樣な情況で有りますから、何處までも御油斷なく御勉强をなさらねばなりませぬ。彼地の婦人は孜々として勉强をして居ッても前に申す通り嫁に往くことが困難なので有りますから初めから普通の人は嫁に往く考へは棄てゝ自分が生涯獨力で生活の立ッやうにと勉强して居ります。彼地では少し上流の婦人になると外國語の一ッや二ッには必ず通じて居るには實に感服する、日本では男子で大學校を卒業したものは外國語の一ッ二ッは知ッて居るが、是れは一般人民の內極めて少數である、婦人も近年は大分進歩して來て英語位ゐは知ッて居るもの多く有らうが西洋各國の婦人には及ばない、勿論彼地では外國語を勉强するに適當な

る場所も澤山有り、敎師も有りますので、便利も宜しいからで有りますが、上流社會の婦人に餘程外國語の嗜みが深い、日本でも近來は高等女學校師範學校華族女學校等でも英語は敎へるやうになッて居るから上流社會の婦人は外國語で談話が出來るやうにならうと思ふ、是非とも爲さうならなければならぬ、是れから條約改正が實施せられて、外國婦人と交際をするやうになり、隣家に外國人が來て住うと云ふやうになッた場合に「私は日本で生れたから日本語より外知らない」と言ッては居られない、此日進月歩の世の中に出でゝ遠き外國の人々と交際をして世を渡らうと云ふ婦人達は、なか〳〵今までの所謂日本の御孃樣風に琴や揷花茶の湯位ゐを稽古して居るばかりでは世に伴ッて往くことは出來ない、少しは西洋の事情に

も通じ、一ッ位ゐの外國語には通曉して貰ひたいと云ふのは切に私の皆樣に望む所で有ります。我々が彼地に參りまして多くの妻君達と談話をすると、自分の國語のみではなく佛蘭西語英吉利語で話をされる、日本の婦人は少しばかり英語を學んだ所が、なか〳〵歐羅巴人と立派に談話の出來ると云ふやうなものは少なく誠に情けない有樣である、デどうも既に人の女房とでもなッた人は仕方が無いが、どうぞ若き人々は、茶の湯挿花位ゐで甘んじて居られない、でどこまでも餘計勉强して外國語をも研究し、將來交際社會に出で丶人に遅れを取らない樣にせられなければなるまいと思ひます、で母の教育も一層責任が重くあるし令孃たるもの丶自個の責めも亦從つて多くなる譯で有ります。

誠に趣意の無い御話で有りましたけれども、先づ私の見たり感じたりした所の獨乙國婦人の一般の情況を御話したので。或は上流中流下流と、其社會の異るに從つて、風俗習慣も自ら多少違う譯で有りますから、强ち私の申した事が悉く當嵌つて居る事ばかりではないかも知れないが、私の見聞して來たことを明瞭に御話をすれば、則ち以上述べました通りで有ります、終に臨んで皆樣が御清聽下さいました事を謝します。

◎芳賀軍醫正の西比利亞遠征談

（前號の續）

此の如く制度の上に於ては露國の醫術は頗る完全あるが如しと雖も一億八千万の人口を有せる大國に於て僅々一万八千の醫師にては事實上到底不都合を免る丶能はす是に於てか之が補充として奇

妙なる制度あり即ち醫士に非ず獨立開業の權なく醫師の指揮監督の下に於て醫師同樣の業務を執ることを得るフェルセル（適當の譯語を得ざれども假醫者と云ふが如し）なる者あり此者亦一定の學校に入りて所定の學科を修む其修學年限は四箇年にして全國に十箇校余あり然れども其程度は頗る卑きものありフェルセル學校の入學生は大抵露國尋常中學二學年の科程を修めたるものは直に入學するを得るの制規にして其尋常中學なるものは我高等小學の課程と同等位の者なり余は敎育上の取調を爲さゝりしが故に確には知らされとも其學科及び年齡等より推定するときは其位のものなるべしと思ふ故にフェルセル學校の如何に幼稚なる者なるかを知るに足るべし此假醫者は全國を通して凡そ十萬人許もあるべし此等は法律上の醫師たるにはあらざれども實際に於ては醫業者なり露國の通邑大都を出て地方に入るときはフェルセルは實際一個單獨の開業醫に異らず此他に露國に於ては陸軍衛生部の下士にして二十年以上勤續せるものは日本の限地開業醫の如き方法にて開業を許せる。ものあり尤もフェルセルは男女共に之ありて女のフェルセルは都市にありては病院に於て看護婦の仕事を爲し居れり此他露國にはアポテーキと稱するなあり此は藥種商のことなり患者の望に從ひ通常藥の小賣をなすなり病人の容体に就て適宜に藥品を賣渡すものなり此アポテーキは中々勢力あり地方に於ては此等も慥かに醫者をやり居るが如し又產婆抔も一定のものなり以上陳るが如き事情なるを以て露國々民の疾病は其大多數に於て此フェルセル及アポテーキの手に治療せらるゝ者にて地

方村民の如きは衛生上實に憫むべき境遇にあるものなり故に制度上に於ては露國の醫者は我邦より進歩せるが如しと雖も事實に於ては本邦醫術は彼より優等なるものに相違なし

西比利亞は前にも述へしか如く露國に於ける臺灣なり否、臺灣よりも甚しき事情あり茫々たる三千餘里の大廣原其間千山萬水のあるありと雖も多くは不毛の荒原にして僅に國都より烏拉爾を越えて両大湖地方を過ぎ浦鹽斯德に達する一縷の驛路あるのみ人の知る如く露國の殖民地とは云へ其實は今なは囚罪の損場にして只た所々に寒烟寂寞たる村落あるのみ尤も各地方總督部のある所は稍々人烟繁簇して市邑の形を成す所もあれと是とても誠に寥々たるものにして只官廳學校兵營病院其他種々の官舍ありて又附近に金鑛のある所あるが故に稍商業等の發達せるを見るのみ此總督部即ち縣廳所在地の病院には必す露國醫學士ありて之を經營す多くは軍隊附屬の軍醫なり其以下に有名の市邑に醫學士を配置する所あり是は本邦の郡醫の如きものにして凡そ地方の醫事衛生を管掌し之に關する百般の主裁權を有し孜々地方の各村落を巡回し病人の診察等をなせる一般開業醫は彼のフエルセルなれ共是とても西比利亞には甚稀少にして居住せさる所多く一朝負傷するか又は病氣にかゝるときは百餘里も行かされは醫士なきか故に全く治療の法なく自然の成行に任すの外なし西比利亞に於ける醫事衛生は空漠なること實に此の如し

尤も軍隊の上に於ては注意を惹けることもあれと是等は今日明言するを得す西比利亞人民は黒麵麭と馬齢薯とを常食とす土地寒きか故に肉類を食ふ

之は銃獵によりて獲る所の熊鹿等にして牛馬豚等も多く飼養せるを見れとも其牛馬は之を賣て物に更ふべき彼等が貴重の財産にして中々彼等か口にすべき所にあらす其他雞等も時々見掛けし事あり此等牧畜の法は支那人より致へられしものにして遼東半島の風俗に倣へるか如し

西比利亞は久しく露國人に忘れられし所なるか近來鋭意開拓を圖り極東に近つくに隨ひ兵營鐵道壯大なる建築を起し目下殆と晝夜兼行全力を注きて其竣工を取急ぎ居れり此等はいつれも日清戰役の影響にして目下本邦内政の未だ協定せさるに乘し其間に充分の整備を爲さむと欲し頻に其成功を急き居れり凡そ露國の企畫は常に壯大なり本邦に於ける元龜天正時代とも云ふべく鐵道杯も軌道客車いつれも歐州のものより大なり尤も本邦人と雖も必しも雄大の氣象を欠けるに非す島國人の爲す事は偏小なり杯と本邦人を侮る者あれとも見よ大坂城江戸城などの建築のいかに壯大なるかを三百年前の建築なれども國民の氣質は自ら其間に露はるゝにあらずや

元來本邦は露國の事情に通する者極て少きか故に露國は外交上其他に於て屢虚喝を試みし事あるか如し尤も本邦新聞記者の如きも同しく露國の事情に疎ときか故に常に露國新聞紙に記載せる針小棒大にして動もすれば威嚇を含める誇張的紀事を信して無稽の事柄を喧傳して我國民に充分露國は強大なり杯と云ふ妄想を抱かしめしか故に露國の事とし云へは何事にても國民をして震ひ恐れしむるか如き風あり是甚しき迷想なりと思ふ速に改めずむはあるへからす國民の意向此の如く卑

佉にては外交上由々しき大事あり英國の如きは外交上國命に關する困難の問題を生して政府退縮の傾きあるときは國民並ひ興りて政府を背後より推して一歩も退却せしめす故に常に其國の体面を汚さす然るに本邦現今の如き國民の狀態にては政府の外交政畧は益々委縮すべし余は我國民か露國怖るべしと云ふ思想を全く其腦裏より放逐せん事を切望するものなり唯將來政事上通商上其關係益々頻繁ならんとする西比利亞の形勢は何れの方面よりも周密なる注意を怠る可からさるのみ（完）

衛生叢談

●撿温法

病者の温度を測るに最も普通便利なる部分は腋の下とすされば其温度を測らんと欲せば先づ其器を豫め能く拭ひたる后其水銀点を腋の下に能く挿み入れ其挿みたる方の手腕を胸の上に安置せしめ、て十分乃至十五分間抑へ置くべし但撿温を迅速にして且正確に圖らんには直腸（即肛門）或は膣内を宜しとす此部に使用するには撿温器に油を塗り適當の注意を以て殆んど五仙迷餘挿み入るべし大約五分間にして最ひ高き温度を讀み得へし殊に一才未滿の小兒にありては肛門即ち直腸内に於てするを良しとす然れ共此際よく注意せざれば爲めに便意を催すことあれば撿温器は使用の際豫め温暖ならしむるを要す又老人若しくは身体衰弱したるものにありても直腸によりて撿するをよしとす只茲に注意を要すへきは直腸によりて撿する温度は常に腋の下温度より〇、五度高きもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あり而して温度の撿測は毎日一回行ひ或は疑しき症には二三回も行ふべし尤も適當なる撿測の時間は毎朝八時乃至九時の間毎夕七時乃至八時の間に行ふを宜しとす而して温度には常温虚脱温熱性温等あり常温は三十六度七分若くは三十七度四分位にして之れは尤も安全なる健康体の温度とす之を上下するに於ては或は虚脱温となり熱性温となる左に記する處を以て其温度の性質を知らるべし

◎常温

甲 三十六度乃至三十六度五分は稍々尋常より降るの温度なり

乙 三十六度七分又は三十七度四分は安全なる健康体の温度とす

丙 三十七度五分又は三十八度は稍熱性に近き温度とす

◎虚脱温（攝氏三十六度以下）

甲 三十三度五分以下を必死虚脱の温度とす

乙 三十三度より三十五度の間の虚脱温は猶生命を保ち得る者なり

丙 三十五度若くは三十六度は更に危險ならざる尋常の虚脱温とす

◎熱性温

甲 三十八度又は三十八度四分は輕症なる熱性病の温度とす

乙 三十八度五分又は三十九度にして夕に至り三十九度五分に至るは中等熱度なり

丙 三十九度五分又は四十度五分は重症熱病の温度なり

丁 四十度六分以上の熱は最も重症なる熱病の

温度とす四十一度七分五厘を越ゆることあれば必死の熱度を著はすものあり

●脉搏

健康なる人の一分時間の脉搏は平均七十若くは六十乃至八十搏を普通とす小兒にありては脉搏非常に多くして一分時間百乃至百四十搏老人にありては（七十乃至九十搏）に至るものあり而して脉搏の減ずる病症は黄疸心臓病脳膜炎の初期貧血症其他神經性の疾病等は多く減脈する者あり又增脉は健康の人にありては筋肉の勞働殊に虚弱の人又は恢復期の人其他總て熱性病は常に增脉するを普通なりとす

大日本婦人衛生會記事

●新年發會　一月十四日本會の新年發會を開かんが爲め豫て會員諸氏へ案内狀を發したるが開會前二日官報號外は

貞宮多喜子内親王殿下の薨去を御發表あらせられたり吾れ〳〵臣民實に恐懼痛悼の至に堪へず謹んて開會を延期し

去二十一日第三土曜日正午より小石川區安藤坂下小石川區役所議事堂に於て發會を開きたり此日や天氣幸ひ快晴なりしかば正午より參會するもの陸續として堪へず午后二時の頃には無慮六百三十餘名に達し滿場立錐の餘地なきに至りたり席定まるや警察醫長醫學士山根正次君には帶と食物との關係てふ演題にて日本婦人の腹部を緊縛する害より延ひて食物牛乳の事に說き及ぼし府下牛乳飲用の多寡を統計表に照し飲用者少きを概し磊々落々一々其弊害を指摘して大に會員の注意を惹きたり次に醫學博士三宅秀君續いて講演せらるゝの豫定なりしが貴族院退出の都合により三時頃出席せらるゝ由なりしかば此際例年に因み役員の催しにかゝる福引の餘興を繰り上げ擧行し一々番號に對比し夫れ〳〵配分せしが物品に上等なるあり下等なる

あり歡聲實に湧くが如くなりき福引終るや恰もよし三宅博士の來會せられたるをもて直に講演を乞ひたるが氏は身体の攝養上に就き海外若しくは卑近の譬諭を引用して懇切に演述せられたるが何れも大に會員の注意を惹きたるが如し

右終り一同歡を盡し四時半頃散會を告げしが實に盛んなる發會なりき

新年福引費寄附連名（姓名いろは順）

一金參圓	會長	仁禮壽賀子
一金貳圓	副會長	濱尾作子
一金貳圓	幹事	鳩山春子
一金壹圓	同	穗積歌子
一金壹圓	同	高木鍈子
一金壹圓	同	松平芳子
一金壹圓	同	北澤信子
一金壹圓	同	宮下咲子
一金壹圓	同	三浦敎子
一金貳圓	評議員	岩崎早苗子
一金壹圓	同	濱田捨子
一金壹圓	同	羽田三緒子
一金壹圓	同	西升子
一金壹圓	同	西靜子
一金五拾錢	同	德富靜子
一金壹圓	同	緒方悅子
一金五拾錢	同	岡田德子
一金壹圓	同	加藤鈴子
一金壹圓	同	加藤常子
一金壹圓	同	加藤秀子
一金貳圓	同	田中以代子
一金壹圓	同	丹波さだ子
一金壹圓	同	南部限子
一金壹圓	同	中濱芳子
一金壹圓	同	馬渡玉子
一金壹圓	同	木内磯路子
一金壹圓	同	宮本樂子
一金壹圓	同	三井晴子
一金參圓	會員	西巻都兒子

合計金參拾六圓也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●福引決算

一金參拾六圓也　寄附金

内

金貳拾參圓五拾四錢參厘	福引四百五十人分
金壹圓五拾錢	ビール六本
金六拾錢	カステラ一カマ
金六拾錢	蜜柑一箱
金五拾錢	最中及煎餅
金壹圓五拾錢	會場謝禮
金五十錢	福引費集配費
金壹圓五十錢	小石川區の衛生會員へ通知費
金三圓六十錢	福引不足に付煎餅百八十人分購入費
金五十五錢	福引運送費
金五十五錢	切符五百枚印刷費

合計金三十四圓九十四錢三厘也

差引

殘金壹圓〇五錢七厘

●物品寄附

一高等化粧水　貳箱

一福原ねりおしろい　貳箱

會員　福原とく子

右福引中ニ寄附せらる茲に謝意を表す

廣告

●入會者

○事務所へ申込に依り

淺草區左衛門町一番地　畑谷よね子

神田區錦町三丁目二番地東京看護婦會々員　桑島千代子

日本橋區濱町二丁目四番地森川方　長志賀子

○宇佐美きち子の紹介に依り

日本赤十字社病院　池上なほ子

○井上松榮子の紹介に依り　早野ひさ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○荒井多嘉子の紹介により

北多摩郡府中町　青木よし子

牛込赤城下町五十三番地　通常　森しん子

牛込區矢來町一番地　通常　河合きん子

牛込天神町五十九番地　松住せき子

牛込　通常　河合某子

○増田せい子の紹介により

本郷區本郷四丁目三十五番地　通常　石井園子

◉移轉者

房州北條町木村屋別莊へ　清水ふき子

神田區中猿樂町七番地へ　高橋清子

四ッ谷區本村町三十二番地へ　市尾はつ子

麴町區元園町一丁目三十一番地へ　前田とよ子

芝區白金三光町七十一番地へ　水谷まち子

京橋區桶町一番地へ　寺田りう子

日本橋區蠣殼町二丁目七番地小林延之助方へ　四谷好子

本鄕區春木町一丁目六十一番地へ　佐藤梅峰子

筑前國嘉穗郡大谷村目尾炭山へ　佐藤すみ子

下谷區池之端七軒町十一番地岡野男治方へ　猪熊花子

芝區小山町一番地へ　加藤つる子

麴町區三番町七十九番地へ　小倉すゑ子

赤坂區青山北町四丁目六十八番地へ　鈴木八重子

京都市南禪寺町二番戸へ　長谷川仲子

芝區三田四國町二番地松田内へ　前木豊子

麴町區元平川町九番地へ　相原ひさ子

北豊島郡王子村大字下十條千二百二十六番地へ　石原坂子

◉改　性

大舘まち子は水谷まち子と改む

大日本婦人衛生會

◉會　告

◉本誌印刷の義本月は遲延相成二十七日出來の爲め從て配達も相後れ候に付此段謹告致し候也

◎新年賀狀

謹賀新正
明治三十二年一月元旦
酒田高等女學校
壚濱琴子

謹賀新年
明治三十二年一月一日
神戸親如女學校内
綿谷禮利子

謹賀新年
明治三十二年一月一日
神戸市神戸女學校
俊野いわ子

謹而奉賀新年
明治三十二年一月一日
羽後生保村
伊藤てつ子

恭賀新年
明治三十二年一月元旦
横須賀千神山
辰巳富野子

謹賀新年
明治三十二年一月一日
函館區大町三十七番地
産婆　太田ゑみ子

新年之御ことほき芽出度申納候
明治三十二年一月元旦
大坂下立賣
岡田美壽子

恭賀新年
明治三十二年一月一日
筑前鞍手郡勝野炭坑
安達芳子

恭しく新年を賀す
明治三十二年一月一日
伯爵夫人　松平光子

新春之御慶芽出度申納候
猶本年も相不變希上候
明治三十二年一月一日
静岡市西草深町井上病院内
産婆看護婦　河野かつ子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

新春の御壽御目出度祝納申候

明治三十二年一月一日

赤坂青山北町四丁目六十八番地

鈴木八重子

新年之御壽何方もおなじ御事にて芽出度申納まゐらせ候

明治三十二年一月一日

淀ばし町

馬渡玉子

謹而新年を賀し
併せて會員諸氏の健康を祈る

明治三十二年一月元旦

牛込區矢來町三番地

荒井多嘉子
増田せい子
田中りう子

齒科診察 午前八時ヨリ 午後三時マデ

東京日本橋區本町二丁目十二番地

齒科醫 高橋孝子
齒科醫 高橋虎一

廣告料

一頁	金二圓
半頁	金一圓
一行	金六錢五厘
總て前金にし割引せず	

明治三十二年一月十八日印刷
明治三十二年一月廿七日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中徳三郎

印刷者 同 神田區小柳町十三番地 小高良造

印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可毎月二十日發行

（定價金拾錢）